

研究ノート

飯田市立竜峡中学校における今田人形の伝承活動について —総合的な学習として行われる郷土芸能の伝承—

長坂 由美（兵庫教育大学大学院） 奥 忍（岡山大学教育学部）

本稿は、音楽教育学的視点から見た郷土芸能の伝承に関する質的研究の可能性について、長野県にある飯田市立竜峡中学校で行われている今田人形の伝承活動に関して論述することによって、明らかにすることを試みたものである。飯田市龍江地区（旧今田村）には、約300年に渡り郷土芸能“今田人形”が伝承されてきた。竜峡中学校では、1978年からその伝承活動がクラブとして行われてきたが、2000年度からは新たに総合的な学習の一環として行われている。竜峡中学校における今田人形の伝承活動は、学校教育のみならず地域社会に存在する様々な教育的・社会的課題を考えていく上で、多分に参考となる事例である。この事例を取り上げ、インタビューによって何をどこまで明らかにすることができ、その中の何を普遍化のための手がかりとできるかという可能性について論述する。

キーワード：竜峡中学校、今田人形、伝承活動、総合的な学習、「地域文化」講座

I. はじめに

長野県の伊那谷（現：飯田市）には、約300年の歴史をもつ人形浄瑠璃が今日も伝承されている。それは恐らく、淡路・阿波系の人形座が当地へ巡業した際に伝えられたと考えられるが¹⁾、伊那谷では、伝播当初から地元の素人愛好者によって神社の祭礼等で演じられ、親しまれる芸となった。伊那谷の人々の人形浄瑠璃に対する思い入れの強さは、今も残る神社境内の農村舞台の立派さや人形カシラの保有数の多さからも十分に察せられる。

とは言え、全国各地の郷土芸能がそうであるように、伊那谷の場合も、急激な社会変化の中で人形浄瑠璃の愛好者が減少し、第2次世界大戦前後には存続が危ぶまれた。しかし、幸うじてその伝承が途絶えることはなく、今日では飯田市内にある今田、黒田、早稲田、古田の4地域にそれぞれ人形座・保存会が存在し、地元の公立学校と連動して活発な伝承活動を展開している。

本稿では、飯田市龍江地区（旧今田村）に伝わる今田人形²⁾の伝承活動を、総合的な学習の1講座として行っている飯田市立竜峡中学校を取り上げ、2002年10月11日に同校で行った北沢彰利教諭と今田人形座³⁾座員の木下文子氏へのインタビューの回答⁴⁾をもとに、同校で実施されている総合的な学習および今田人形の伝承活動に関して分析・論述する。

II. 飯田市立竜峡中学校について

1.学校の概要

飯田市立竜峡中学校は、飯田市内の川路地区、三穂地区、龍江地区の3地区にあった中学校が1962年より統合され、1965年に発足した。南アルプス、天竜川と豊かな自然に囲まれたこの学校には、現在、以下の表に示した通り234名の生徒が在籍し、22名の職員が彼らを指導・支援している。

表1 飯田市立竜峡中学校の生徒数（人）

	男子	女子	計
1年	37	36	73
2年	41	33	74
3年	42	45	87
計	120	114	234

北沢教諭によると、生徒達は全体的に素朴で穏やかだということである。課外活動が盛んで、特に剣道部や吹奏楽部は受賞歴が多く、県下に知られている。また、生徒会が中心となり、アルミ缶や牛乳パックの収集で得た資金を地域の老人ホームやユネスコへの寄贈・寄付に当てるなど、福祉活動に力を入れている。

2.今田人形への取り組み

その竜峡中学校では、上記のような活動に加え、

地元の郷土芸能である今田人形の伝承活動が行われている。

この伝承活動は、1978年に「郷土クラブ今田人形班」が発足したことに始まり、1980年からは

「今田人形クラブ」として、毎週のクラブ時間を中心に、今田人形座から技芸の指導者を招いて意欲的な練習・公演が行われるようになった。生徒達が練習するのは当初から人形遣いのみで、公演時には、地元の淨瑠璃愛好者の演奏に合わせて上演してきた。その後、休日も含めて課外での活動が多くなったことから、他の課外活動と重複して参加できる特別部として扱われるようになった。

しかし、学習指導要領の改訂に伴うクラブ時間の削減により、「今田人形クラブ」もそのまま存続させることは不可能となった。北沢教諭によると、その後、教職員の間では、今田人形を課外活動の1つにすることも考えられたが、

北沢：うちの学校は、そもそも今田人形がクラブだったんですよ。で、クラブが新しい指導要領でなくなりましたよね。で、それをどうしようかつつって。1つは部活にするって案もあったようで。ただ、部活にしちゃうと、本当に人数が限られてくるんじゃないかなって。運動やりたい子は、やっぱり運動（部）へ行っちゃいますし、吹奏楽もあるし。今田人形だけで成立するのは難しいんじゃないかなって。

と述べているように、様々な課外活動の部で活躍している生徒が、重複して今田人形の伝承活動に参加できなくなることが懸念されたために却下された。

そしてさらに、これまでクラブとして行われてきた今田人形の伝承活動の形をできるだけ変化させることなく、いかにして学校の教育課程の中に存続させ、かつできるだけ多くの生徒が参加できるようにするかが検討された。その結果、

北沢：それで、じゃあ、総合的学習を、あの8分野の各講座を作って、その中の1つに「地域文化」、今田人形を講座を作って、それで、しかもその、1、2、3年一緒になきやだめだから、学年を越えた講座制にしよう、ということで今田人形

のためにそうなってるんですよ。総合的学習の1つの、年間35時間は。あとは、他にまた総合的学習を学年単位で組んであります。

というように、今田人形の伝承活動を主軸として総合的な学習が構成されることとなった。そして、2000年度からは、以下に述べる通り、今田人形の伝承活動が総合的な学習の「地域文化」講座に組み込まれ、今日も生徒達への伝承が続けられている。

3.今田人形を主軸とした“総合的な学習”の構成

竜巣中学校における総合的な学習は、どの学年にも全70時間が確保されており、生徒達には、毎年10月に開かれる同校の文化祭を区切りとして、2つの学習の場が35時間ずつ設けられている。

その1つは「竜巣タイム」と呼ばれるもので、これは生徒一人一人が学年に関係なく、《国際理解》《環境》《健康》《福祉》《創作》《文化芸術》《地域文化》《学校の特性》の8領域の講座の中から興味関心のあるものを選択し、それぞれの課題を共同（個人）で追究していくものである。もう1つは「しなおかタイム」と呼ばれるもので、これは学年・学級を母集団として、1学年では《地域と私》，2学年では《社会と私》，3学年では《世界と私》というテーマに沿って、地域と深く関わりながら課題を見つけ探求するものである。

北沢教諭によると、この総合的な学習の構成は、実質的には既に外部指導者を招きながら展開してきた今田人形の伝承活動を主軸として考案されたとのことである。しかし、その学習内容や学習活動に偏りは見られず、結果として学校独自の教育課程を生み出すことが可能となっている⁵⁾。

また、1980年以降クラブとして行われてきた今田人形の伝承活動が組み込まれた「竜巣タイム」に関しては、

長坂：1年生に入学してきて、色々な総合の学習で「こういう講座がありますよ」という紹介は、先生がされるんですか？

北沢：講座紹介は…、うちの学校は、屋台方式でやろうって言ってて、それは、続けてきた講座の3年生が中心になって、「この講座ではこんな事をやりますよ」という紹介をするんですよ。一略ーそれを、2

回繰り返すようにして、自分がやってみたい講座2つを選んで、それで見に行って、その紹介を受けて、「あつ、自分はこれに入りたい」つつう希望を出すと。

長坂：だから、屋台って言うことはこう、それぞの活動の場所でやつてるんですね。

北沢：あちこちで…。そうです、そうです。

というように、各講座を選択する時点から生徒の自主性が尊重されている。また、いずれの講座にも基本的に定員がなく、生徒達には毎年、講座選択の自由が保証されている。それゆえに、

北沢：一略一子どもが集まりやすいことはあります。

木下：責任持つてね、そのところ（講座）に入れるでしょ、自分たちが…。

北沢：あの、教育課程の中に（総合的な学習＝今田人形の伝承活動が）あるから、当然時間が確保されるじゃないですか。年間35時間は。それと、野球部やつてもバスク（部）やつても来れるっていうところがあるから、ええ。来やすいんですね。だから、結構、他（部活動）で活躍してるような子も（人形を）やってくれてるから。

というように、どの生徒達にも今田人形の伝承活動に参加できる機会と、クラブ時代以上の練習時間が確保される結果となっている。

3. 総合的な学習における今田人形の伝承活動

では、総合的な学習の「地域文化」講座に組み込まれた今田人形の伝承活動が、今日どのように行われているかを見てみたい。

1. 「地域文化」講座への生徒の参加状況

2002年度現在、「地域文化」講座に参加する生徒数は表2の通り33名である。

表2 「地域文化」講座の参加生徒数（人）

	男子	女子	計
1年	0	7	7
2年	6	1	7
3年	9	10	19
計	15	18	33

北沢教諭や木下氏の話によると、毎年、「竜巣タイム」の講座選択時に「地域文化」講座を希望する生徒数はかなり多いとのことである。しかし、「竜巣タイム」の各講座には基本的に定員がないとはいながらも、今以上に参加人数が増えると、

木下：去年はね、部員が（？）多かったから、37人だったから、もう1人（指導に）来てもらつて、2人で別々の外題をやつたんですよ。だけど、上演する時にはやっぱり（出演人数が）少ないから、それって難しいですね。

というように、生徒一人一人の舞台出演の回数や、技芸の指導等に限りが生じることになり、それがひいては生徒の意欲を削ぐことになりかねない。そのため、「地域文化」講座では、やむなく3年生や前年度の講座参加者を優先して人数調整がなされている。しかし、そうした調整がされながらも、今年度の「地域文化」講座への参加生徒数は、全校生徒数の約14%に相当する。

また、先に、「竜巣タイム」の場合は、生徒達が毎年自由に講座を選択できるということも述べたが、この「地域文化」講座に関しては、

長坂：例えば1年生の時に、人形をやってて、もう1年やってみようということで…。

北沢：ああ、そうです。ええ。3年続ける子が多いですね。

木下：3年間同じ所にね、入る子がね…。

北沢：3年間殆ど同じ子が。殆どなんですよ。で、そこに時々新しい、「やってみたい」なっていう子が加わったり、それから、まれに1年で他へ移ったりとか、ええ。そりやまあ自由なもんですからね。

というように、殆どの生徒が、3年間続けて「地域文化」講座を選択し、今田人形に触れている。

2. 「地域文化」講座の指導者

「竜巣タイム」の各講座では、それぞれ担当の教師による指導・支援が行われている。「地域文化」講座の場合は、北沢教諭を含む2名の教師が担当している。今回インタビューした北沢教諭自身は、

2000 年に竜巣中学校へ着任した。担当教科は数学で、過去に今田人形に関する経験は全くなかったそうであるが、総合的な学習の「竜巣タイム」実施当初から「地域文化」講座の担当を務めている。

また、先にも述べてきた通り、竜巣中学校における今田人形の伝承活動には、1978 年のクラブ発足当初から技芸の外部指導者が存在する。1978 年以降、生徒達への技芸指導に当たったのは、当時今田人形の中心的指導者として知られていた木下迪彦氏（今田人形座座員）であった。しかし、1988 年に氏が亡くなつたため、それ以降は彼の妻である木下文子氏が引き継ぎ、今日に至つてはいる。

今回のインタビュー時の会話や場の雰囲気から、今田人形の伝承活動に関わる北沢教諭と木下氏の関係はすこぶる良いと思われたが、次の回答からも両者が学習・生徒指導者、技芸指導者として互いに尊敬し合いながら、生徒達への指導・支援を行つてることが推察される。

木下：子ども達に教えるという意味で、人形をね、教えるのは、やつぱり先生、適してたなあと思うよ。

北沢：でも、今田人形なんて、何にも教えてませんよ。そばにくつついでね。あのー、ほんとに。だいたい、判んないですしね（人形を）どっちの手で持つかも判らないーー一同笑一。ほんとに、ほんとにそうなんですよ。

木下：でも、先生ね、生徒が足りないっていえか、休んだときなんかには、きちんと手とか足とかって、ぱっと行ってついて下さるので、知らない訳じゃないんですよ

また、北沢教諭のこうした前向きな姿勢は、学校で郷土芸能の伝承活動が行われる場合、教師側にその郷土芸能に関する経験がなくとも担当者として十分に対応し、様々な形で生徒達への指導・支援ができるという 1 つの好例であると言えよう。

3. 今田人形の練習

先にも触れたが、総合的な学習の「竜巣タイム」は、10 月に同校で開かれる文化祭を区切りとして 35 時間確保される。その間、「竜巣タイム」は原則として毎週木曜日の 5、6 校時に設定され、文化

祭での成果発表を目標に学習が進められる。こうしたことから、「地域文化」講座に参加する生徒達の今田人形の練習も基本的にはその時間内に行われる。しかし、後述する通り、生徒達は休日も含めて年間約 10 回の公演を行つてはいるため、公演前には随時練習日が設けられる。

生徒達の練習は、1999 年に建てられた今田人形の専用練習場「敬愛館」で行われている。また、生徒達が練習しているのは人形遣いのみであるため、普段はカセットテープに録音された淨瑠璃に合わせて練習している。しかし、練習、公演ともに彼らが遣つてはいる人形は、今田人形座が保有する本物である。生徒達の技芸指導をしている木下氏は、彼らの練習や公演のたびに座の人形を車に積み込み、学校や公演先へ向かう。

また、今年度の「地域文化」講座で練習が行われている外題（演目）は、『寿式三番叟』と『伽羅先代萩一政岡忠義の段一』である。練習する外題は、毎年、木下氏が幾つかの外題を提示し、生徒達がその解説を聞いた上で決める。なお、昨年は講座の参加人数が多かったため、上記 2 外題に『生写朝顔話一宿屋から大井川の段一』を加えて練習していたとのことである。

4. 今田人形の公演

「地域文化」講座の学習内容には、今田人形の練習のみではなく、校外での公演も含まれている。それは、今田人形の伝承活動がクラブから総合的な学習へ、すなわち授業の一環として組み込まれた現在も変わることはない。生徒達は学校内外で年間約 10 回の公演を行つてはいる。

生徒達の主な公演には、毎年 8 月上旬に飯田市中心部で開催される「飯田人形劇フェスタ」、10 月中旬に龍江地区で行われる大宮八幡宮秋季祭礼、当校の文化祭、11 月下旬に飯田市黒田で開催される「伊那人形芝居公演」等がある。これらの公演日は夏季休業中や休日となるが、

長坂：「人形劇フェスタ」だとか夏休み中ですかね？大宮の八幡宮の休日もお休み中（休日）ですよね？この公演がね、休日に入るっていうことに対して、やつてる子どもらはまだしも、お家の人も含めて、反応ってどうですか？別に抵抗はなく？

北沢：ああ、それはないですね。休日は部活も

ありますしねえ。だから、きっと同じような感覚で捉えてくれていると思うんですよ。子ども達も、別に何とも言いませんね。夏休みは、公演までは殆ど練習しましたから、ええ。

というように、生徒やその家庭に何ら抵抗感はないようである。

また、上記の公演の他に様々な招待公演が加わり、生徒達は平常の授業日に公演に出かけることもある。特に今年度は11月に台湾公演が入ったため、「地域文化」講座の生徒達は4日間の授業が受けられないということになった。しかし、竜峡中学校では、生徒達が授業日に公演に出かけた場合も全て出席扱いとされ、学習の保証についても考慮されている。

長坂：4日間たとえば授業抜けたりとか、授業日にも公演に出ることがあるということは、公演活動も全部授業の一環と数えてるから可能なんですね？

北沢：あっ、そうです。出席可能。校長で、出席扱いにして、一略一竜峡中は特色が今田人形なもんですからね。

北沢：一略一事によつては練習やらなきやいけないかなと思ってますから。

5. 「地域文化」講座の活動費

上記のように、「地域文化」講座では、学校内外での活動が盛んに行われているが、その活動費は非常に合理的に賄われている。

まず、「地域文化」講座に参加する生徒達へのユニフォーム（Tシャツ）の購入代や、彼らの学習のまとめに使用される写真代等、生徒達の学習に直接的に還元されるものは、飯田市からの助成金3万円と各公演時の謝礼が当てられている。

次に、生徒達の芸術指導に当たる木下氏への指導料については、飯田市から今田人形座宛に支払われている。また、生徒達が練習や公演に使用する人形は、今田人形座から無償で借用している上、修理費等は座の会計で賄われている。

そして、学校外の公演にかかる諸費用は、全て公演依頼先もしくは飯田市によって負担されている。

ただし、公演時に生徒達と共に演する淨瑠璃演奏者への謝礼に関しては、大宮八幡宮の秋季祭礼等、今田人形座から学校へ公演を依頼した場合は人形座から支払われる、学校の文化祭公演の場合は学校会計から支払われる。

このように、「地域文化」講座における今田人形の伝承活動費は、場合に応じて市、人形座、学校、公演依頼先が負担することが制度化されており、いずれにしても生徒達の家庭には一切負担がかかるない仕組みとなっている。

IV. 学習記録と評価

上述のように、「地域文化」講座の活動は、今田人形の練習・公演を専らとする。しかし、それは総合的な学習の一環として正規の授業時間中に行われている。そうしたことから、講座担当の北沢教諭らは、以下のように、生徒達に練習や公演での自分を振り返らせたり、学習記録を残すよう指導・支援している。

北沢：一略一「自分はこういうこと気をつけてやりたいな」とか、友達のを見て、気がつくこととかは、時々書いたり、それから、学習カードみたいなものは書いて、残して、やっておりますが…。

北沢：基本的には、「竜峡タイム」の場合はポートフォリオをやってるんですよ。透明クリアファイルを（生徒が）それぞれ持つてましてね、その中へ学習記録は全部時間系列で入れて、最終的には、そこから抽出で、ポートフォリオを…、屏風みたいなのを、結局“まとめ”みたいのをそれぞれが作つて、一略一

北沢：一略一「残しなさいよ」って、記録のものとか。写真も沢山撮つてあげて、それも配つてあげて、で、何とかまとめができるようにと、してますが。

また、今田人形の伝承活動が総合的な学習に組み込まれたことにより、講座の担当教師には、生徒達の伝承活動を評価することが必要となった。竜峡中学校における総合的な学習に関しては、

北沢：一略一通知表は、2学期に「竜峠タイム」（の評価を）書いてあげて、3学期に「しなおかタイム」（の評価を）横（学級・学年での学習時間）の方が多いもんですから、3学期にはその発表会もあるから、横を書いてあげようと。

北沢：一略一両方評価して、いい方を要録には残してあげると

というように、2学期に「竜峠タイム」の学習を、3学期に「しなおかタイム」の学習を評価し、評価の良い方を指導要録に記すことになっている。

「竜峠タイム」の評価は、各講座担当の教師によってまとめられる。なお、北沢教諭の場合は、生徒一人一人の普段の取り組みと学習記録のまとめから評価を行っている。

V. おわりに

本稿では、飯田市立竜峠中学校において2000年度より実施されている総合的な学習、およびその中の「地域文化」講座における今田人形の伝承活動に関して教育学的視点から論述した。今回、同校を実際に訪問し、2人の指導者に直接インタビューしたことにより、学校教育の中で今田人形の伝承活動が開始された経緯や、その伝承活動が継続している諸要因、或いは人間関係等、量的調査では掴み切れない内容を把握することができた。

また、同校の伝承活動に関する事例研究は、今後、以下に挙げたような、学校或いは学校を含む地域社会における教育的・社会的課題を考える上で、多分に参考になると思われる。

①総合的な学習の構成や内容
②学校における郷土芸能の伝承活動の在り方
③学校教育における地域人材（外部指導者）の活用
④学校と地域社会との連携
⑤地域社会における郷土芸能の伝承活動の在り方
本稿では、実際に今田人形の練習・公演を行っている生徒の実態や、彼らの詳細な活動状況を述べることはできなかった。しかし、竜峠中学校における今田人形の伝承活動には、毎年多数の生徒が参加しており、その伝承活動自体が20年以上に渡って継続しているという点を明記しておきたい。今後、竜峠

中学校における今田人形の伝承活動についてさらに調査を行い、生徒の実態等、学習者の視点からの研究を進めたい。

注

- 1) 飯田市美術博物館：『飯田市美術博物館調査報告書〔2〕伊那谷の人形芝居－文書目録編－』，pp.141-192，1996年3月
- 2) 今田人形は、現在の飯田市龍江地区に伝わる郷土芸能。史料に現れるのは宝永元年（1704年）が最初で、氏神大宮八幡社の祭礼で演じられたのが始まりとされている。
- 3) 今田人形座は、龍江地区の一般の人々によって構成される。大宮八幡宮境内の「今田人形の館」を拠点に、毎週2回の練習と年間約30回の公演を行っている。
- 4) 本稿に取り上げたインタビューの回答は、回答者の言葉をほぼそのまま文章化したものであるため、そのままでは判りづらいと思われる箇所には、適宜（ ）を用いて言葉を補った。また、回答者が話の合間に発した語や、言い直しをした部分については省略している。
- 5) 飯田市立竜峠中学校における総合的な学習の構想は、同校のホームページ [<http://www.ryukyoh.ed.iidanet.jp/>] で公開されている。

参考文献

1. 飯田市美術博物館：『飯田市美術博物館調査報告書〔1〕伊那谷の人形芝居－かしら目録台帳－』，1991年3月
2. 飯田市美術博物館：『飯田市美術博物館調査報告書〔2〕伊那谷の人形芝居－文書目録編－』，1996年3月
3. 今田人形座：『グラフィック今田人形』，1999年8月

Title : A Comprehensive Learning Activity of Transmitting Imada Puppet Show in Ryukyo Junior High School, Nagano

Yumi NAGASAKA (Joint Graduate School (Ph. D. Program) in the Science of School Education. Hyogo University of Teacher Education)

Shinobu OKU (Faculty of Education, Okayama University)

Abstract : In this paper, I overviewed a "comprehensive learning hour" for transmitting Imada Puppet Show in Ryukyo Junior High School in Iida city, Nagano. Tatsue people have transmitted Imada Puppet Show for 300 years or so. Imada Puppet Club member in Ryukyo Junior High School has practiced the puppet show and has performed it since 1978. In 2000 the Seventh Course of Study was proclaimed and since then, many students have joined the puppet show activities included in "General Studies" of "comprehensive learning hour". Imada Puppet Club activity in Ryukyo Junior High School is a suggestive example to resolve educational/social problems for transmitting regional music treasure.

Keywords : Ryukyo Junior High School, Imada Puppet Show, Transmitting Activities, Comprehensive Learning Hour, a course of "Local Culture"
